

# 26年8月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 7月20日～ 26年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### 素材生産動向

品目		26/8月	9月	10月
伐採動向	スギ	△ 16.7	16.7	25.0
	ヒノキ	△ 12.5	0.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0
出荷・販売動向	スギ	△ 16.7	8.3	16.7
	ヒノキ	12.5	0.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0
手持ち立木在庫動向	スギ	10.0	20.0	20.0
	ヒノキ	50.0	0.0	16.7
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	0.0	0.0	50.0

スギの伐採は8月の減少が、9月、10月には増加に、ヒノキは8月の減少から9月、10月は横ばいに。カラマツは3ヵ月連続の減少傾向、エゾ・トドは3月連続の増加で推移。

スギの出荷・販売は8月の減少が9月、10月には増加へ、ヒノキは8月の増加の後、9月、10月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続の減少傾向、エゾ・トドは3ヵ月連続の増加で推移。

スギの手持ち立木在庫は3ヵ月連続して増加傾向、ヒノキは8月は増加、9月は横ばい、10月は再び増加、カラマツは3ヵ月連続の減少で推移、エゾ・トドは8月、9月は横ばい、10月は増加に

### モニターからのコメント

#### (伐採動向)

- ・トドマツは、事業最盛期を迎え、天候も回復してきたので伐採は順調。
- ・スギ、ヒノキは伐採控え目である、
- ・スギ、ヒノキは国有林生産請負のため減少。
- ・スギ、ヒノキは8月は間伐中心、9月は皆伐中心にやや増加。
- ・スギは天候悪く、搬出出来ないため伐採控えている。

#### (出材・販売動向)

- ・当地方ではまだ工場にトドマツ・カラマツとも不足感があり、出材・販売は順調。ただ、運材車不足から山元から運び出すのが遅れている。針葉樹合板工場だけは在庫過剰により受け入れが調整されている。
- ・カラマツの出材は動きを見せている。

#### (手持ち立木在庫)

- ・トドマツは、現在、国有林の素材生産請負事業をしているので、手持ちの立木に不足感はない。ただ、立木購買で良い物件があった場合は応札していく予定。
- ・スギ、カラマツの在庫は横ばいが続いている。